

2021年9月4日

2021年ラウンド2レース4

スタートでの後退を挽回し、大草りき選手がFRJ初優勝を飾る

2021 Formula Regional Japanese Championship(フォーミュラ・リージョナル・ジャパニーズ・チャンピオンシップ)のラウンド2 レース4決勝が9月4日にツインリンクもてぎで行われ、45号車の大草りき選手(PONOS Racing)がポール・トゥ・ウィンで初優勝を飾りました。



スタート進行で各車がグリッドについた時点では雨は止んでいましたが、路面はウェットで、全車レインタイヤを装着してのスタートとなりました。

フォーメーションラップを終えて各車がグリッドに着きましたが、96号車TAKUMI選手(B-MAX ENGINEERING FRJ)が最終ビクトリーコーナーでスピンを喫してしまい、これにより、エクストラフォーメーションラップが実施され、TAKUMI選手は最後尾につくことに。また、スピンの際に39号車の田中優暉選手(ASCLAYIndサクセスES)に追突があったとして、レーススタート後にドライブスルーペナルティが課されました。

エクストラフォーメーションラップの分、1周が減算され、16週のレースがスタートしましたが、ここでポールポジションの大草選手が出遅れてしまい、28号車を駆る古谷悠河選手(TOM'S YOUTH)がトップ、8号車の三浦愛選手(ARTA F111/3)が2番手に浮上し、1コーナーを通過します。

3番手に後退した大草選手ですが、3周回目の5コーナーで三浦愛選手をパスして2番手に浮上。この時点でトップの古谷選手とは5.4秒の差がありましたが、周回を重ねる度にファステストラップを更新する渾身の走りで11周回目には前を行く古谷選手の1秒後方まで迫りました。

そのままの勢いで、大草選手は古谷選手に仕掛けていき、13周回目の1コーナーでアウト側から並びかけると、そのまま並走して3コーナーの進入で前に出ることに成功。ついにトップの座を奪い返しました。

大草選手は最後までペースを緩めず、最終ラップを前にした15周回目には2分00秒631でさらにファステストラップを更新。そのまま最終ラップもミスのない走りをみせて、見事FRJ初優勝を果たしました。2位には古谷選手が入り開幕4戦連続で表彰台を獲得。3位には三浦愛選手が続き、レース2以来となる今季2度目の表彰台となりました。

マスタークラスは、1周回目でクラストップに躍り出た7号車の畑享志選手（F111/3）が終始レースをリード。11号車の植田正幸選手（Rn-sportsF111/3）との差を徐々に広げていく走りを披露し、最後は7.3秒のリードを築いて、クラス初優勝を飾りました。2位には植田選手、3位には34号車の三浦勝選手（CMS F111）が入りました。

ツインリンクもてぎでのラウンド2は9月5日にも2レースが開催され、公式予選2が午前10時00分に予定されています。この公式予選2のベストラップで12時50分からのレース5のグリッドが、セカンドベストで16時25分からのレース6のグリッドが決まります。レースはそれぞれ17周もしくは35分で争われます。

レース4 優勝 大草りき選手コメント

「フォーメーションに入る時のスタート練習でエンストをしてしまったこともあって、本番ではアクセルを踏みすぎてしまい、ホイールスピンをしてしまいました。2台に前に行かれて少し焦りましたが、三浦選手を抜いたあたりから『絶対にいける』という手応えがあり、ミスをしないようにしながらも、諦めずにプッシュし続けました。明らかに古谷選手との差が縮まっていたので、その時点でどうやって抜こうか考えていました。オーバーテイクする1周前に古谷選手が1コーナーでブレーキで行き過ぎていたので、次の周は行かないだろうなと思っていました。案の定、その展開になったのでアウト側から並びかけて、追い抜くことができました。今週は絶対に勝つと決めていたので、最低限の目標は達成できました。でも、出場するレースは全部勝つというつもりでいるので、明日もポールポジションを獲って、優勝して終わりたいです」

レース4 マスタークラス 優勝 畑享志選手コメント

「このカテゴリーで優勝するのは初めてなので嬉しいです。練習走行の段階から雨のコンディションでは速かったのですが、予選ではミスがあったのでクラストップを獲得することができませんでした。決勝ではスタートで植田選手に前に行かれないように頑張ろうと、チームと話し合っていました。前に出られれば、ペースでは僕の方が絶対に速いと思っていましたし、途中で路面が乾き始めてから、調子がさらに良くなったので、これは絶対にいけると思いました。明日もレースがありますが、ドライコンディションでも調子は悪くなかったので、どんな状況でも戦えると思っています。明日も勝てるように頑張ります！」

以上



オーバーオール優勝 大草りき選手



マスタークラス優勝 畑享志選手